

項目	観点	小学音楽 音楽のおくりもの(17・教出)	小学生の音楽(27・教芸)
1 学習指導要領の教科の目標を達成するために取り扱う内容の選択について	感性を働かせ音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや美しさを見いだせたりするように、各教科書では内容についてどのような配慮がされているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱の領域では、児童が歌い方を工夫しやすい教材曲が掲載されている。斉唱や交互唱、輪唱などができる教材や「Short Time Learning」のコーナーを全学年に設置し、歌を通して外国語に親しむ活動や、英語・算数・理科などに関連する教材も掲載されている。音楽表現に対する思いや意図をもって取り組むことができるよう、発達段階に応じて選曲や編曲などが配慮されている。(新曲 2年 P30・31など 輪唱 3年 P50など)</li> <li>・器楽の領域では、楽器との出会いを大切にしており、鍵盤ハーモニカやリコーダーの導入は、8ページで構成されている。また、鍵盤ハーモニカやリコーダーの写真が大きく、1音ずつ確実に学び進めていくことができる。合唱奏の教材も多数掲載されており、自分たちでアンサンブルをつくっていく楽しみを味わうことができるよう配慮されている。(楽器の導入ページ 1年 P32～39 3年 P18～25 合唱奏 3年 P48・49など)</li> <li>・音楽づくりの領域では、文字やイラスト、活動例を適切に示しながら、学習の系統性や発達段階を考慮し、児童の思いや意図を生かして音楽をつくることのできるような配慮がされている。(全学年)</li> <li>・鑑賞の領域では、鑑賞と体を動かす活動を一緒に行ったり、表現と鑑賞、音楽づくりを組み合わせたりして、想像力を働かせながら音楽と関わることのできるような配慮がされている。(1年 P 8・9 4年 P50・51)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱の領域では、オリジナル曲のほか、わらべうたや英語の歌、日本の歌など、さまざまなジャンルの中から教材性が高く、魅力的な曲を精選している。また、発達段階に合わせた歌詞の内容や、子どもたちの声帯に無理な負担がかからないよう、適切な音域を設定し、児童が、「こう歌いたい」という気持ちになったとき、その気持ちを表すために必要な力を無理なく楽しみながら身に付けられるような配慮がされている。(6年 P10 2年 P 58・59 英語の歌 3・4・6年 日本の歌 全学年)</li> <li>・器楽の領域では、楽器で演奏することができる曲だけではなく、手拍子で演奏できる曲も掲載している。また、楽器の導入ページを設置し、楽器の取り上げ方を工夫したり、演奏家によるワンポイントアドバイスや、児童の意欲を引き出す合奏教材も掲載したりして、児童が主体的に学習を進められるような配慮がされている。(5年 P76・77 楽器の導入ページ 1年 P34～36 3年 P20～23)</li> <li>・音楽づくりの領域では、児童が「何を」「どのように」工夫すればよいのかという見通しをもてるように、作品例や様々なアイデアを例示し、児童の発想力や音を音楽にしていける力を培えるような配慮がされている。(全学年)</li> <li>・鑑賞の領域では、学習目標や活動文に加えて、楽器のイラストや写真などを掲載し、視覚からも鑑賞のねらいを捉えやすくできるような配慮がされている。(3年 4年 P52～55)</li> </ul>
2 内容の程度及び取り扱いについて	音楽的な見方・考え方を働かせるためにどのような工夫が見られるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年において、「まなびナビ」が示され、児童に思考させたい内容について丁寧に記述されている。音楽活動例やヒントが示唆され、児童自らの学びの中で「気づき」や「学ぶ楽しさ」を発見することができるような工夫が見られる。</li> <li>・即興的に表現する活動が随所に掲載され、リズム打ちや手拍子リレーなどの学習活動を積み重ねていくことで、音楽を表現する楽しさを味わったり、友達と一緒に活動する喜びを感じたりすることができるような工夫が見られる。(1年 P23 2年 P17など)</li> <li>・各学年の巻頭に「学習マップ」が新設され、学習の見通しを示しながら、各題材で学習する内容をわかりやすく解説している。また、巻末には「『音楽のもと』まとめ」や速度記号、音符や休符等の一覧が掲載され、学習したことがいつでも確認できるような工夫が見られる。(全学年)</li> <li>・「音楽を形づくっている要素」を「音楽のもと」として示し、教材や活動に関するものを見開きごとに明記して、児童がその働きを意識しながら学ぶことのできるような工夫が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年において、児童が「何を学ぶか」「何ができるようになるか」をより具体的に分かりやすく示すために、学習活動(活動文)が「考える」「見つける」などのアイコンに示され、学びがより見えるような工夫が見られる。</li> <li>・リズムの学習を「常時活動」として扱うことで、拍子感やリズム感を育成するだけでなく、友達と合わせて演奏するアンサンブルの技能を高めたり、音楽づくりに生かせる発想を得たりすることができるような工夫が見られる。(1～4年)</li> <li>・各学年の巻頭に概要を「学習マップ」として示し、年間を通した学習の見通しがもてるようになっている。また、巻末には「ふり返りのページ」を設け、学習したことをいつでも確認できるような工夫が見られる。(全学年)</li> <li>・「音楽を形づくっている要素」が見開きごとに明記されており、それぞれの教材の中で児童がその働きを意識しながら学習活動に取り組めるような工夫が見られる。</li> </ul>
3 内容の配列・分量	題材の配列や分量には、どのような特色があるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要題材数は全学年(8)であるが、「音楽ランド」「めざせ楽器名人」「スキルアップ」等のタイトルで、主要教材との関連、行事等で扱える楽曲等のオプション的な教材が全学年に配置されており、各学校、各学年の実態に応じて柔軟に学習量が調整できるようになっている。</li> <li>・主要部分の題材構成は、「音楽の見方・考え方を働かせながら資質・能力を育む題材」、「生活や社会と音楽との関わりを扱う題材」、「主体的・協働的に表現を楽しむ題材(まとめ)」となっており、6年間の系統性のある題材配列で、児童の学びが深まるような構成となっている。</li> <li>・1年生ではスタート・カリキュラムを視野に就学前の学習と関連した教材が設定され、2年生以上では、音を聴き合う力を育むスキルアップ活動が設定されている。</li> <li>・低学年では「リズム」「旋律」「強弱」、中学年で「楽譜」、「拍子と旋律」、高学年で「和音」「調」を前半に配列し、前半で培った力を活用して発展的な学習となるような題材群を後半に配列する題材構成となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年の題材数は1年(10)、2年(10)、3年(9)、4年(9)、5年(8)、6年(7)で、各学年の授業時数に配慮したものとなっている。題材のねらいに即して、学習内容や関連教材が有機的に取り上げられているため、教材や学習活動の分量を弾力的に増減できるように配慮されている。</li> <li>・題材構成は、「各学年のスタートに適したオリエンテーション的な題材」「音楽を形づくっている要素との関わりを中心にした題材」「我が国や郷土の音楽を学ぶ題材」「学年をまとめる総合題材」となっている。発達段階に応じて「音楽的な見方・考え方」を働かせながら、系統的に6年間の学びが積み重ねられるようになっている。</li> <li>・表現と鑑賞の教材が関連、対照、対比されながら組み合わせられており、多様で効果的な学習が展開できるよう配列されている。</li> <li>・低学年ではリトミック的な要素をもった身体表現を中心とした教材が多く、特に1年生では、幼児期に慣れ親しんだ教材を多く取り上げており、スタートカリキュラムへの配慮が見られる。</li> </ul>
4 表記・体裁	用語や写真、使用上の便宜等については、どのような工夫が見られるか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のめあてを見開きで表示し、さらに重要な言葉を色を変えて差別化する等、児童がめあてを意識して学習に取り組めるよう、レイアウトや表現方法の工夫が見られる。</li> <li>・折込ページで歌詞の内容に忠実なワイド写真を掲載することで、歌詞の内容(日本の歌)をイメージしながら歌唱することができるような工夫が見られる。</li> <li>・巻末折込にリコーダーの運指図や音楽記号等の資料が配置され、随時、児童が自分で確認しながら学習に取り組むことができるよう工夫されている。</li> <li>・WEBコンテンツが用意されている教材に「まなびリンク」が設定され、作詞・作曲者のメッセージや演奏を視聴するなど、教科書から一歩深めた学習活動を行う工夫が見られる。</li> <li>・色覚等への配慮をふまえた判読しやすい色使いやレイアウト、ユニバーサルフォントの使用等、特別支援教育の視点での配慮がされている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生以上では、表情豊かに表現する演奏家の大きな写真が掲載され、表現や活動の参考となる工夫が見られる。</li> <li>・裏表紙には、小学生が各地で郷土の祭りや芸能に取り組み、それらを受け継いでいる写真を掲載しており、子どもたちが地域の文化や芸能に興味・関心をもち、親しみを感じられるような工夫が見られる。</li> <li>・二次元コードを読み取ることで、演奏や楽器の演奏の仕方を動画で視聴したり、音楽づくりの教材や、鑑賞曲の曲の構成を表した図形楽譜の視聴等、タブレット端末で学習をサポートするコンテンツの工夫が見られる。</li> <li>・楽譜や歌詞、活動文については、無地や単色の部分に配置したり、ユニバーサルフォントの使用、色覚特性に対応するための色調の配慮等、特別支援教育の視点に立った工夫が見られる。</li> </ul>